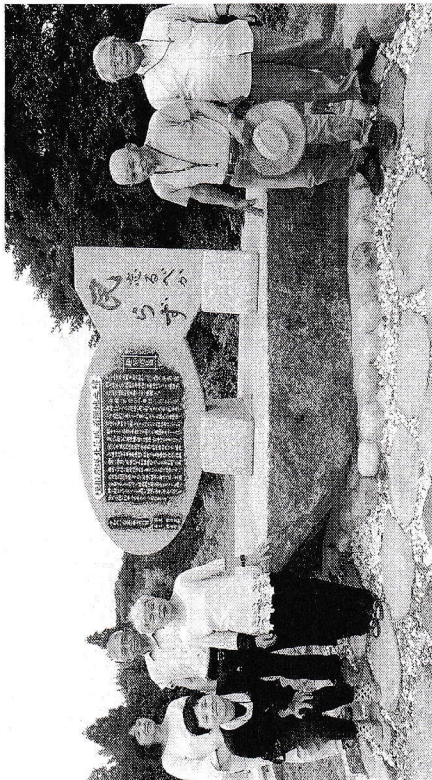


# プーラ・ビダ!

ジャーナリスト・伊藤千尋の

63



模擬原爆の記念碑と地元九条の会や平和委員会の皆さん。右から2人目が神永峰敬さん、左から3人目が伊藤千尋さん。茨城城北茨城市で筆者撮影

いとう・ちひろ 国際ジャーナリスト、元朝日新聞記者。著書に『ゴスワリカ』『ゴキータバ』(高文研)など。アト・ピーダは「純粋な人生の意味で、平和憲法を持つ国ゴスワリカのあじろ言葉」

米軍は1945年8月9日、広島への原爆投下の前、投下の第一号が茨城城北茨城市で7月20日でした。模擬原爆を作って日本各地に落とす訓練を行いました。30都市で計49回にわたります。色と形がガキヤに似ているびんがメイン

## 「民意をくからず」

それから79年たつ今年6月、同市磯原町に記念碑が落成したと聞き、見に行きました。碑の実物は長さ3・3メートル、碑は半分だけあります。建立の目的は「冒頭の民意をくからず、原爆の被害を身

ざ」という大きな字がまず目に入ります。本文は「模擬原爆北茨城犠牲地之碑」の下に碑を建てた趣旨が書かれ、「壮絶な原爆被害の始まりはここ北茨城市にありました。北茨城の模擬原爆を空想し、原爆の被害を身

# 「原爆被害のはじまり」の地に

## 北茨城・模擬原爆の碑

近に感じ、その痛みを自分のもとで願う、核兵器使用を否定するところを強く持ち続けたいとすることを願う(中略)この石をここに刻ぶであります。碑を建てたのは、この文を書いた地主の野口泰朗さんと、制作した石工の神永峰敬さんの二人です。神永さんと連絡すると、仕事用の軽トラックで駆けつけてくれました。「模擬原爆が落ちたのは野口さんのお父さんの土地。当時、私は小学校で生半帯は空襲に遭い、赤いガキヤだけが残っていた。これを記録として残さなくてはならない。それが私の役割だと思った」と話します。今は86歳で、地元の「北茨城・九条の会」の会員です。碑の後ろには、日本地図に模擬原爆が落とされた場

## 原爆投下の「訓練」

模擬原爆の重さは1万磅で4・5メートルあります。めだちとコンクリート製の大な模擬弾だけに1発でも被害は大きく、全国の死者は400人、負傷者1300人を出しています。原爆投下の候補地は新潟市、京都市、広島市、小倉市の4カ所でした。米軍はその周辺に模擬原爆を落とすし、正確に目標に当たると同時に兵士が原爆の被害を受けないよう退避する訓練をしたのです。7月20日は北茨城市をはじめ長岡、

所死傷者数が記されていません。広島と長岡は特にアト付きです。神永さんは年前、市内の伊藤さんから「原爆9条の記念碑を自宅に作ってほしい」と依頼されました。伊藤さんが作った模型をもとに、神永さんが9条の石碑を彫ったのです。9条の碑は等身大の人間の形です。胸が「9」で丸い部分から顔をのぞけると、観光地の顔出し看板のよう。私に代わって碑にスワグテンダをしよう、このガキヤにしよう、と伊藤さん。その71年手感覚は、9条がしかりと身に書いてあることを示します。碑の設置は、2022年5月3日の憲法記念日でした。それに無難な神永さんは模擬原爆の碑を考えたのです。

## 原爆投下の「訓練」

雪山を新潟県辺りの10カ所に投下しています。京都府文化財の地という理由で直前に候補地から外されました。8月9日に小倉の上空に飛来した爆撃機は天候不順のため急ぎや、投下地を長岡に替えたのです。模擬原爆は終戦の前日の8月14日も愛媛県喜多川市や豊田市に通達爆弾として投下されました。しかし、製作費に対して効果が見合わないうちに、残った66発はすべて海に投棄したと言われます。